


KOBATO

POLICY BOOK



家庭的な温かい環境で
大切な子どもたちを共に見守り、
共に支え共に育みましょう

社会福祉法人 国分福祉会

子鳩保育園

基本理念

人として
ひとり ひとりを 大切に—
ひとつ ひとつに 心をこめて—

子鳩保育園は、
明るい未来へ、
しあわせの種を広げます。

私たちは、かけがえのない人として
一人ひとりの気持ちを受けとめ、目には見えない大切なことと生きる力を育みます。
子どもたちの成長を共に見つめ、誠実でひらかれた保育園を目指します。
信条を胸に、感謝の心を持って、明るく朗らかに成長できる仲間でありたい。
みんながしあわせを感じることができるように。

信条

私たちは神仏に感謝し、
先ず安全に心がけて
親恩・礼節・友愛
の精神で協力一致して皆んなを明るく育てましょう。

目次

section 1	保護者のみなさんへのメッセージ	4
section 2	本園の保育目標	6
section 3	本園の保育課程	8
section 4	3歳未満児の発達特徴	10
section 5	3歳以上児の発達特徴	12

section 6	デイリープログラム	14
section 7	園行事について	16
section 8	伝承行事・社会行事について	18
section 9	本園ならではの保育活動	20
section 10	食育の方針	22
section 11	保育環境について	24
section 12	子どもの発達と遊びについて	26

section 13	安全管理の方針	28
section 14	二次感染防止の方針	30
section 15	健康管理の方針	32
section 16	虐待予防の方針	34
section 17	不審者対策の方針	36
section 18	衛生管理の方針	38
section 19	情報管理の方針	40

section 20	0歳児(ベビー組)の保育について	42
section 21	1歳児(ちゅーりっぷ組)の保育について	44
section 22	2歳児(さくら組)の保育について	46
section 23	3歳児(たんぼぼ組)の保育について	48
section 24	4歳児(すみれ組)の保育について	50
section 25	5歳児(ゆり組)の保育について	52

section 26	地域子育て支援事業	54
section 27	職員の育成方針	56
section 28	地域社会における園のビジョン	58



子どもたちの育ちのために 私たちができること



子育ての専門家として 使命感に沿った役割認識を共有します

ひとりひとりを大切に

私たちは子どもをひとりの人として尊重し、真摯に向き合っています。一人ひとりの思いを受け止め、一緒に喜んだり、考えたりと共感しあうことを大切にしています。言葉のやり取りだけでなく、「あなたのことを見えています」という一人ひとりへの優しいまなざしを通して、子どもが愛される喜びを感じられるようにしています。



✂ おうちの保育メモ

子どもたちを抱きしめてあげてください

子どもの頃に抱きしめられた記憶は、人の心の奥の方の大切な場所にずっと残っていきます。そうしてその記憶は、優しさや思いやりの大切さを教えてくれたり、ひとりぼっちじゃないんだと思わせてくれたり、そこから先は行っちゃいけないよと止めてくれたり、支えてくれたりします。子どもをもっと抱きしめてあげてください。小さな心は、いつも手をのばしています。

本園の使命と役割とは

園が「選ばれる時代」を迎えて、それぞれの「個性」が園に求められてきています。私たちは、改めて「本園はどのような目的を持った施設なのか」を保護者のみなさんと共通理解していく必要があると考えています。

子どもの人格が形成される、とても大切な時期を過ごす場所だからこそ、しっかりとした役割意識と使命感を持って保育にあたります。

また、私たち自身も子どもたちや保護者のみなさんと共に成長し、より良い社会づくりに貢献していきたいと思っています。



親の心に寄り添い、共に喜びを感じ合う



私たちは、子どもの成長の喜びを保護者のみなさんと一緒に分かち合いたいと思っています。子どもはもちろんのこと、保護者のみなさんにとっても第2の家庭として、子どもにとってより良いことを一緒に考えていきましょう。

地域の子育て活動の拠点として

子育ての知識や経験、技術を提供することによって、赤ちゃんからお年寄りまでみなさんの笑顔の基地になりたいと思っています。地域のみなさんがほっとできる場所、明るくなる場所として、開かれた園を目指します。



保育者自身の成長のために

子どもは保育者の鏡。保育者が日々「感謝の気持ち」を忘れず、常に自分を成長させようという気持ちを持ち続けることが、子どもにも自然と伝わっていくと考えています。お互い励まし合い、刺激し合いながら、自分自身を高めていけるようにしています。

一人ひとりの子どもに 強く生き抜く力が求められる時代だから



保育目標の実現に向けて日々の保育を構成します

保育目標

命を大切に、5つの生きる力をもつ子ども

- ・人の話を聴く力
- ・集中して、意欲的に活動する力
- ・自ら考え、ルールを理解し守る力
- ・お互いを認め合い、思いやりのある良い人間関係をつくる力
- ・豊かな体験を通して、感性や創造性をもつ力

おうちの保育メモ

子どもは、真似ることで成長していきます

子どもは大好きな人を真似ることで人としての大切な心が育っていき、自らの力を強くしていきます。その中でも「あいさつ」は家庭の影響が最も大きく出るものです。

大好きなお父さんお母さんの元気な「おはよう!」が、お子さんのしっかりとしたあいさつに繋がっていきます。

私たちが目指す理想の保育とは

現代社会では、きょうだいも少なく周囲の人とのコミュニケーションも希薄になりがちで、人間関係の学習の場が限られています。キレる子どもの急増、自殺する子どもの出現など、人間関係の未熟がそのまま子どもたちの命に影響する事件も後を絶ちません。

私たちは、一人ひとりの人権や主体性を尊重して、子どもの思いを受容し、確かな人間力のある子どもを育てることを目指して、次のような保育目標を掲げています。



思いやりの心を育てる異年齢保育

3・4・5歳児3～4人のひとつのなかよしグループを、園でのきょうだいとして位置づけています。

2階のランチルームで大きなテーブルを囲み、子ども同士が関わり合いながら昼食とおやつを食べます。

自分の席が決まっているため、安心して食事をすることができます。

Happy・Dreamのそれぞれのクラスの遊具や空間だけでなく、友だちや保育者との繋がりや関わりを大切にしていくことで、自主性の芽生えや自立心を育みます。また、子どもが共に生活をする保育室が一人ひとりの子どもにとっての居場所であり、安心感となるように環境を設定しています。

異年齢のクラスの中で、5歳児は年下の子どもに、遊びや生活の仕方を教えながら楽しく過ごしたり、3・4・5歳児年齢別の活動も行います。3・4歳児は、遊びや食事を通して2歳児を迎え入れる準備をしながら進級を意識していきます。

親子の絆を深め、人の成長の礎を築く

将来、子どもが心身共に健やかな成長をとげるために、最も大切なのが親子の基本的な信頼関係です。3歳までに精神的な安定感及び秩序がうまく育っていることでたくさん幸せな時間を経験した子どもは何ことにもやる気を持って取り組んだり、人に思いやりを持って接したりすることができる人に育っていきます。

本園は就労する親を支援する施設でもありますが、子どもたちの最善の利益という観点から、お仕事が早く終わったり、土曜日・日曜日などのお休みの日には、できるだけ親子で一緒に過ごす時間を子どもにあげてもらいたいと願っています。

親子のコミュニケーションは質より量が大切だと考えています。本園では折りにふれて親子でコミュニケーションを取ることができる行事を設定するなど工夫をし、親子の絆を深めていく手助けをしています。



園舎や園庭、保育室よりもっと大切なもの



入園から卒園まで… 計画に基づき、一貫性のある保育を

保育課程をもとに指導計画を作成し、具体的な保育内容を考案

保育課程の立案は、子どもの月齢・年齢に沿って生じる身体機能や言語機能などの発達について正しく理解することから始まります。確かな専門的知識を土台として、保育活動を企画し構成していくことから、日々の保育を考案しています。

保育の計画	
保育課程	■保育の方針や目標に基づき、発達過程を踏まえて長期的見通しを立て、子どもの発達の連続性に配慮して編成します。
指導計画	■発達の目安を基準に、個々の発達も考慮して具体的な指導計画を立案します。 ■年間計画を設定し、1年を4期に分けて、その期ごとの見通しを立てます。
具体的な保育活動	■指導計画に基づき、保育の流れに沿って、月案・週案・デイリーの活動内容を策定します。 ■発達段階に応じて、対応ができるよう柔軟性の高い内容とします。
自己評価	■保育を評価し、ねらいの達成のために改善、継続し保育の質の向上をめざします。



おうちの保育メモ

子どもは段階を踏んで成長します

0・1・2歳児は、一人ひとりの発達に個人差があるため、育ちの過程を十分に考慮し、絶対的な信頼関係を築けるような個別の計画を立てる必要があります。また、3歳以上になると、一貫性のある全体的な視点で見た計画を立てます。また、支援を必要とする子どもに年間指導計画と月案を個別に計画を立てています。

子どもは1度にたくさんのことができるようになるわけではなく、ひとつひとつのことをクリアしていき、次のステップに進んでいきます。

私たち大人は、子どもが段階を踏んで成長していくことを理解し、焦らずに保育することが大切です。

保育のねらいを職員間で共有

保育者は、発達についての専門的知識や保育活動が引き出す成果について、全職員で共通認識しておくことで、入園から卒園まで一貫した理念に基づいた保育を提供していきます。

そのために、私たちは、保育課程というものを策定しています。

子どもたちの個人差をしっかりと考慮し、遊びを通して学習能力を高め人間としての豊かな心を育て、一人ひとりが様々な活動を経験できるように、保育課程を立案します。



本園での取り組み内容

園年保育計画		年間指導計画		Happy Dream class	
目標	...	目標	...	目標	...
ねらい	...	ねらい	...	ねらい	...
内容	...	内容	...	内容	...
評価	...	評価	...	評価	...

年間異年齢保育指導計画書

保育計画書		年間指導計画書	
目標	...	目標	...
ねらい	...	ねらい	...
内容	...	内容	...
評価	...	評価	...



発達過程を専門的に理解し きめ細かな環境設定を



目の前に開かれる未知の世界… 積極的に子どもを理解し、支えます

少しずつ動けるように／ おおむね6ヶ月未満

- 生理的欲求(空腹時、眠くなる)を激しく泣いて知らせるようになる
- 首がすわる
- 特定の大人と情緒的な絆が形成される
- お父さんやお母さん、保育者など、よく知っている声を聞き分けてそちらに向く
- スプーンの感触に慣れ、離乳食を始める
- 両手を合わせて握ったり組んだり、手にふれたものを口に運んでしゃぶる
- あやすと人の顔をじっと見つめ笑ったり『アーウー』といなんん喃語を発したりする
- 寝返り・腹ばいなど全身の動きを楽しむようになる
- ベッドの中で手の届くところにある吊りおもちゃやガラガラ、ぬいぐるみなどにふれたり、なめたり、握ったりして遊ぶ

心地良いなと人見知り／ おおむね6ヶ月から1歳3ヶ月未満

- 人見知りをする・初めての場所におびえる
- 片手に持ったものをもう片方の手に持ち替える
- 腹ばいからお座りができるようになり、ハイハイからつかまり立ち、つたい歩きをするようになる
- 取って欲しいもの、興味のあるものを指さして知らせようとする
- 簡単な言葉が分かるようになり応答的な関わりや話し掛けにより、自ら言葉を使おうとする
- 手を自由に動かせるようになる
- 身近な人やものに興味を示す
- 授乳・排泄・睡眠のリズムが整い、園生活に慣れてくる
- 離乳食から段階をふんで幼児食へ移行する
- 特定の大人との情緒的な絆が深まる

噛みつきで自己表現！

この時期、きょうだい間や園の集団の中で、思い通りにならないと出てくるのが「噛みつき」。これは防御の噛みつきといって、この頃の自己主張の手段で、自然な発達の過程のひとつとして見られます。とはいえ、相手を傷つける行為なので、相手が痛がつていることを噛みついた子に気付かせることが大切です。噛みついた子にはただ叱るだけではなく、噛んでしまった理由を言葉に代えてあげ、気持ちを受けとめます。また、噛みつきはできるだけ防いでいきたいと思いますが、どうしても防ぎきれない場合もあります。その際は、その時の状況や子どもの行為の意味、どうして噛みついたのかを保護者の方にお伝えしていきます。

✧ おうちの保育メモ

基本的信頼感を養う、人生において最も重要な時期

子どもたちは、それぞれに様々な可能性を秘めて、この世に生を受けます。

その可能性の芽を一つひとつ引き出してあげるには、何よりも「基本的信頼感」が必要です。ご家庭はもちろんのこと、園でもまずはたっぷりと愛情を注ぐこと。愛の中で子どもの心と大人の心が繋がり、信頼関係が生まれ、発達しようとするエネルギーとなっていきます。この時期の子どもたちは、自らの意思を表現する力が希薄である反面、身体機能はめざましい発達を遂げます。

保育者には、子どもの思い、状態を積極的に酌み取っていく姿勢が大切です。



何にでも興味津々/ おおむね1歳3ヶ月から2歳未満

- 歩き始め、自分の意志で身体を動かせるようになる
- ひとりで自由に歩きまわる
- 食べものの好みがはっきりし、好き嫌いが出てくる
- クレヨンでなくり描きをする、またクレヨンでぐるぐる丸を描く
- スプーンを持って自分で食べようとしていたり、コップを自分で持って飲むことができる
- 自分で穿こうとしてパンツやズボンの片方に両足を入れたりする
- オモチャの取り合いで相手を叩いたり、噛んだりすることもある
- 自分のものと人のものの区別ができる
- 気に入ったオモチャで一定時間遊ぶことができる
- 保育者と一緒にごっこ遊びをする中で一言二言と語彙も増え、言葉のやりとりを楽しむようになる
- 意思を示そうとする欲求が高まる
- 大人の言うことが分かるようになる



何でも自分で/ おおむね2歳

- 自己主張が強くなり、自分でやりたがったり、自分の思いが通らず、激しく泣くことがある
- 自己主張が盛んになり、友だちとオモチャの取り合いなどによるケンカが多くみられる
- 使った道具・オモチャなどを元の場所に戻すことができる
- 排泄のための身体の機能が整い、トイレに行き排泄できるようになる
- 大人と簡単なごっこ遊びを楽しむようになる
- 語彙が急激に増え、言葉の使い方を覚え、自分の要求や訴えを言葉で伝えられる
- 指先が器用になりちぎったり貼ったり、また、衣服の着脱や自分の身の回りのことにも関心を示し、自分でしようとする
- 歩く・走る・跳ぶなど、身体を活発に動かせるようになる
- イメージを膨らませることにより、真似っこ遊びができるようになる



子どもの気持ちに寄り添い 効果的な手助けを



ぶつかり合いや葛藤は成長の証!まず見守り、受けとめます

なんで～、どうして～/ おおむね3歳

- あいさつや返事などの言葉を自分で使うようになる
- なぜ?どうして?という質問が多くなる
- 言葉による見通しが持てる
- 箸を使って食べる
- 登る、跳ぶ、転がるなど全身を使って動くことを好んで楽しんだり、基本的な運動能力が発達する
- こぼしたり、落としたりしないように力を加減して運んだり扱ったりする
- ひとりでトイレに行き、排便後の始末をしようとする
- ハサミで紙を切って遊ぶ
- 言葉による表現がますます豊かになってくる
- 決まりを守ろうと思うようになる
- 友だちとの関わりが増え、集団遊びを喜び、トラブルが多くなる
- 日常生活で経験したことをごっこ遊びに取り入れる
- 予想や意図、期待を持って行動できるようになる
- 食事・排泄・衣類の着脱などが、ほぼ自分でできるようになる

お兄ちゃん、お姉ちゃんの誇り/ おおむね4歳

- 認めて欲しいという欲求が強くなる
- プライドを持つ
- 仲良しグループができ、仲間との繋がりが強くなる
- 絵の具・クレヨン・紙・ひもなど色々な素材に親しんで遊ぶ
- 空想力・想像力が豊かになる
- 友だちとイメージを共有しながらごっこ遊びを楽しむようになる
- 他の人に見られることを意識して行動するようになる
- 相手をいたわり、思いやることができる
- 一日の生活の中で見通しを持った行動ができ、決まりやルールを守ろうとする
- 全身のバランスが発達し、動きが巧みになる
- 「～しながら～する」など2つの異なった動きを同時にできるようになる
- 「～だけれども～する」など自分の気持ちを抑えたり、葛藤を経験しながら、我慢できるようになる

がんばりを認めてあげましょう

様々なことに対して我慢したり、がんばったりする力が育ってくるこの時期には、大人側の配慮として、「がんばりすぎなくてもいいんだよ…」というメッセージを与えることも大事です。「やりたいうようにやっていたよ」「お兄ちゃん、お姉ちゃんでも甘えたいよね」「お話しできてよかったね」など、認めてあげたり受けとめてあげることが、子どもが集団社会の中へ元気に飛び出していくエネルギーとなるのです。

おうちの保育メモ

想像力や感性を育む時期…自立から自発へ

この時期の子どもは、色々な経験をしたり、遊ぶことに夢中になったりしながら、想像力や感性を育んでいきます。保育者にとって大事な視点は、まず見守ってあげること。できたことを大いに認めて、次に「やってみよう」という意欲や自信を持たせてあげることです。ときには友だちとぶつかり合い、葛藤も生じますが、それら全てを成長の証と捉え、子どもの気持ちに寄り添い、状況に応じて効果的に手助けをします。また、この時期は、想像力や感性を育む時期でもあります。様々な経験をしたり、遊ぶことに夢中になったりという中から、気付く力、考える力、我慢する力、人との関わり方、人間関係を築く力など、かけがえのない心の財産が培われます。



自分たちでトラブルも解決／ おおむね5歳

- 運動機能がますます伸び、喜んで運動遊びをする
- 身体全体を使った複雑な動きができるようになり、左右の手の動きが巧みになり、道具や素材の扱いが上達してくる
- 自分たちで決まりをつくって、遊びを楽しむようになる
- 昨日・今日・明日といった時間の概念が育つ
- 排泄の後始末を自分でできる
- 経験したことを思い出して描くことができる
- 仲間と同じ目的を持って行動できるようになる
- 食事・排泄・着脱といった日常生活がほぼ自分だけでできるようになる
- 友だちのしていることが気になる
- 嫉妬の感情が前面に出てくる
- 自分の考えや気持ちを言葉で伝えられる
- 仲間の話を聞き、「～だけれども～する」ということが出来るようになる
- 友だちと言葉による共通のイメージを持って遊ぶ
- ケンカを自分たちで解決しようとする
- 人の役に立つことを嬉しく考える
- 我慢することや決まりを守ることの大切さ分かる
- 良いこと・悪いことを自分で考え批判する力が芽生えてくる



人生を自分で切り開く／ おおむね6歳

- 永久歯が生えてくる
- 歯ブラシを使って歯を磨ける
- 前後・左右・遠近などの位置が分かる
- 手先がより器用になり、道具や素材を自由に扱えるようになる
- 文字が読める嬉しさを実感する
- 文字・数字・記号に、より興味を持ち自分で書こうとする
- 衣服の調節が必要に応じてできる
- 個人差はあるが、縄跳びなどができるようになり、努力したことをほめてもらうことで、大きい喜びを持つようになる
- 相手の気持ちを想像できる
- 友だちのがんばったところを認める
- 個人差はあるが、ほとんどの子が平仮名を読める
- 話し合いでトラブルを解決しようとする
- 運動機能もますます伸び、意欲的に自分から進んで取り組む
- 様々な遊具を使って活発に遊ぶようになる
- ダイナミックな遊びができるようになる
- 様々な経験を通し、自立心が高まるが、身近な大人に甘えることもある
- 一定の見通しを持って、それに基づき最後までやり遂げる
- 集団で組織的・想像的な遊びに発展させることができ、その中で役割分担も生まれる

